

菊池 大介 選手・石津 大介 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
44

菊池 大介 選手
MF 31歳
本巣市・北方町応援大使

神奈川県横浜市の出身で両親と3才下の弟と4人家族で育った。現在は結婚し、3才の息子と奥様と岐阜で生活をしている。先日、次男が誕生したので、これからは家族4人で岐阜での生活を謳歌していく予定である。

父親の転勤のため鳥取県で小学校6年間を過ごしたが、奥様とは同じく転校してきた小学2年生の時から仲であり、不思議なご縁であった。その後も父親の転勤に伴い長野県で中学校3年間を過ごした後、2007年高校入学と同時に湘南ベルマーレのユースに所属し、2種登録選手として当時のJ2最年少でJリーグデビューを果たした。J2湘南ベルマーレにその後3年間在籍した後、2010年にJ2のザスパクサツ群馬に1年間期限付き移籍。2011年から再び湘南ベルマーレに復帰し、ここから大活躍のチーム遍歴が始まった。2012年にはJ2優勝を果たし、2013年はJ1で戦ったが1年でJ2に降格、2014年には1年で再びJ1復帰を決めて、その後も2016年までJ1の湘南ベルマーレで大活躍した。2017年に浦和レッズに移籍したが湘南ベルマーレが再びJ2リーグに降格したこともあり、悩んだ末の決断であった。一方、この2017年から奥様と埼玉で生活を始め、二人の人生がスタートした。その後2019年にJ2の柏レイソル、翌2020年にJ2のアビスパ福岡に期限付き移籍したがその両方でJ1昇格を果たしている。2021年にJ2の栃木SCに期限付き移籍した後、今シーズンからFC岐阜の昇格に向けての新戦力として完全移籍で加入した。

FC岐阜は技術力、選手の力量、戦う意志も固く、特にベテラン選手の引っ張る力は素晴らしく、チームに大きな影響を与えている。自分自身は過去ケガで甘んじてきた経験から毎試合の準備を怠らず、自分がすべきことや求められることもしっかりと認識しているし、皆が結束してJ3を何としても勝ち抜いて責任を果たそうとの想いで一杯である。

どうか、ファン・サポーターと共に一戦一戦を決勝戦のつもりで戦い抜きますので、皆様の熱烈な応援のほどよろしくお願いたします。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
51

石津 大介 選手
FW 32歳
瑞穂市応援大使

福岡県糟屋郡新宮町出身、現在は福岡市に奥様と小学校1年生の娘がいて、岐阜には単身赴任中。新宮FCユースチームから福岡大学附属大濠高校、福岡大学を経て、地元の大きな期待を背負ってアビスパ福岡に2012年に加入、多くのゴールを決めてチームに貢献した。その活躍もあり2014年後半からJ1のヴィッセル神戸に移籍した。2017年から再びJ2のアビスパ福岡に戻って大活躍し、2020年には5年ぶりにJ1復帰を成し遂げて2021年はJ1の舞台上で健闘した。

今シーズンは所属クラブが決まっていない中、FC岐阜からキャンプ参加のオファーを受け、そこでのプレーが評価されて加入が決定。素晴らしい実力のメンバーや活気溢れるJ3とは思えないレベルのチームに加入させてもらって今も感謝している。前半戦での不十分な結果には、自分としても課題を認識しているし、全員がそれぞれなすべきことを強く認識しているので、是非ファン・サポーターの皆さんには大きな期待を持って、後半戦を声出し応援も含めて後押しして頂きたいと思っている。

この夏は2月にFC岐阜に加入してから初めて、家族3人水入らずで初めての岐阜を大変楽しく過ごすことができた。板取川ではアユやアマゴなどの川魚のおいしさに大満足しましたし、高山ではコテージを借りて楽しく過ごすことができた。その他にも下呂温泉のいいお湯など観光したい場所が沢山あって、家族が喜んで来てくれるまちであると感じた。岐阜での生活は毎日の練習、ホームの試合、アウェイの試合の繰り返しで、この間は殆どどこにも出かけられなかったので、ホームタウン応援大使を担当している瑞穂市にまずは訪問したいですし、県下のたくさんの観光地に行くのも楽しみにしている。

J3の各チームは勢いを持ってガツガツと戦ってきますが、こちらはそれ以上の執念と気迫で一戦一戦の勝利を目指して、チーム一丸で必ず結果を出していく決意をしていますので、さらなる応援をよろしくお願いいたします。